

令和7年度 第2回 久留米市国民健康保険運営協議会議事録

1 日 時 令和7年12月22日（月） 13:30～14:10

2 場 所 久留米商工会館5階大ホール

3 出席者 （委員）

区 分	氏 名	出欠
公益代表	田中 功一	○
	石田 眞一郎	○
	大熊 博文	○
	長野 哲	○
被保険者代表	三宅 賢和	○
	執行 博子	○
	刈茅 フサ子	
	田中 真知子	
保険医又は保険薬剤師代表	植田 省吾	○
	首藤 俊介	○
	石橋 裕二	○
	塘 信也	○
被用者保険等保険者代表	大淵 工	○
	権藤 裕子	○

（事務局）

健康福祉部 部長	川崎 勝之
健康福祉部 次長	野口 明仁
健康保険課 課長	千代島 智昭
健康保険課 主幹	伊藤 洋幸
健康推進課 課長	渋谷 達彦
地域保健課 課長	三浦 圭史 他

（傍聴者）

なし

5 報告事項

質疑要旨 (1) 令和8年度 国民健康保険事業費納付金について			
質問・意見等		回答	
委員	1人当たり納付金の令和7年度との比較で、子ども・子育て支援納付金を除く増額が5,219円ということですが、主な理由は何か。	事務局	増額の要因としては、1人当たりの医療費の増加がある。これにより、医療分の納付金が増額となっている状況である。
委員	それは分かるが、内訳はどうか。 例えば、病院行く回数が全体的に増えたとか、なぜ増加したのかを知りたい。	事務局	詳細な分析まではできていないが、最も影響が大きいのが、高齢化に伴う医療費の増加で、久留米市においても、年々1人当たりの医療費は増加している状況にある。 具体的などころで言うと、令和6年度の1人当たり医療費は約45万円。一方で令和2年度は約39万9千円。この4年で5万円程上がっている。 また、国保に占める65歳以上の前期高齢者の割合が約4割であり、この影響でも、年々1人当たりの医療費が増加しているという状況と考えている。
委員	分析がまだ進んでいないとのことなので、詳細はまた後日お願いしたい。	事務局	了解した。
委員	話が重複するが、1人当たりの医療費の増加と、被保険者数の減少というところで、昨年度までは、納付金総額では減少していたところが、医療分が前年度比で令和7年度はマイナス2.4億円だったものが、今回の仮算定では1.3億円の増額となっているので、今までとは違う傾向にあると推測される。色々な要因があると思うが、分析して報告をしてもらった方がいいのかなと思うので、意見として申し上げる。	事務局	参考までにお答え申し上げますと、納付金自体は県の医療費の動向を踏まえて、各市町村分が算定されるが、例えば令和7年度の納付金を決めるに当たっては、令和6年度の医療費の状況から算定している。 令和6年度は、令和5年度と比較して医療費の伸びが小さかったが、今回の仮算定に当たっては、納付金額に占める1人当たり保険給付費が前年度と比べて、4.9%程増えていることが、医療分の納付金が令和7年度と比較して1.3億円増額となったというところにつながっている。 あわせて、子ども分が1.6億円追加になったことが大きな要素として、令和8年度の納付金が仮算定の段階ではあるが、3.1億円程増額となったという状況である。

委員	2人からの質問は、医療分が1.3億円、後期支援分が0.2億円上がっている、この中身が何か、なぜ上がっているのかを分析して対応しないと、ということ言われていると思う。 だからその部分で、分析をやってもらいたい、例えば疾病分析とか、そうことになると思うが、そういう意見だと思う。 単に金額的なものではなくてその辺りの中身を、もう少し精査してもらえればと思うので、よろしくお願いします。	事務局	了解した。
(2) 子ども・子育て支援金分に係る保険料について			
委員	子ども・子育て支援金分の追加により、医療分等の賦課上限に影響があるのかを教えていただきたい。	事務局	例年、年末の税制改正大綱により、医療分等の上限が示される。上限は各項目で設定されるが、子ども分の上限が示されるかどうか現時点で分かっていない。子ども分の追加により、他の項目の上限に影響することはない。
(3) 久留米市国民健康保険運営協議会の今後のスケジュールについて 質疑なし			
(4) データヘルス計画の進捗状況について			
委員	特定健康診査の受診率について、受診率は伸びたが、目標に届かなかったという報告だったが、現在、受診の働きかけは具体的にどのようなことをしているのか。	事務局	特定健診未受診者への働きかけとしては、郵送等で受診勧奨を実施している。 受診率が高い自治体を参考にしながら、おおよそ勧奨できるところは実施しており、徐々に上がってはいるが、すぐには上がらないというところもある。 内訳を見ると、昨年度受診したが今年度受診していないという方がいるので、そのような方にどうやって継続して受診してもらうかというところを、検証しながら、高めていきたいと考えている。
委員	今まで継続的に実施していることがあると思うが、何か新しいことに取り組まないと、なかなか難しいのかなと思う。 資料には全国平均が出て	事務局	佐久市の事例では、行政だけではなく、民間の力も活用して実施しているということだった。行政だけでは当然限界があるので、久留米市もそのようなサポーター、ご協力いただける方の力をお借りして、受診率を伸ばしていきたいと考えている。 ご意見、ありがとうございます。

	いないが、大体40%くらいが全国平均だったと思う。久留米市は、それに近い数字ではあると思うが、以前話をさせていただいた佐久市は受診率が70%以上である。そういった他市の成功事例を、研究されているかと思うが、良いところは取り入れて、佐久市はびんころ地蔵で意識啓発をしているので、地蔵さんを召喚するなど、何らか面白味を持った、注目を集めるような取り組みをしてもらえたらいいのかなと思う。		
--	--	--	--